

教育開発センターの活動報告

教育開発センターには、本学における学士課程教育の構築・推進を目的とする学士課程教育部会と、教育の質の向上を目的とするFD部会がある。それぞれの部会における2009年度の活動を以下に要約する。

<学士課程教育部会>

学士課程教育部会の2009年度の活動は、①DP、CP、APの策定、②入学前教育、初年次教育の推進、③GPA制度の検討、の3項目に特に重点を置いた。

① DP、CP、APの策定

各学部において議論を重ねていただいた結果、全学部がDPの策定を終えた。全学共通のDPも策定した。いくつかの学部ではCP、APの策定も終わっており、最終的には全学部で今年度中に策定を完了する予定となっている。なお、3つのポリシーは来年度以降も継続して改訂を重ねていく予定である。

② 入学前教育、初年次教育の推進

部会にて継続的に検討を行っている。2010年度は今までどおり各学部で実施する。全学共通での実施について今後さらに検討を続ける。

③ GPA制度の検討

本学薬学部や他大学での導入・実施状況について情報収集を行った。2010年度も情報収集と調査を継続し、実施に向けてできることから取り組んでいく予定である。

<FD部会>

2009年度のFD部会の活動は、基本的には従来のFD・SD委員会の活動を継続する形で行った。

2009年の活動の一覧は、教育開発センターが主となって取り組んだ活動と、各学部・機構において取り組んでいただいた活動に分けて、次ページ以降に掲載している。この一覧には記入していないが、前期・後期を通じて授業公開を実施した。残念ながら、2009年度は授業公開による参観の成果報告はない(法科大学院を除く)が、来年度には期待したい。

なお、2つの部会とは別に、教育開発センターとして本学の教育改革の活動などを学内外に周知する広報活動をおこなった。3つの方策(①Webの立ち上げ、②ニュースレターの発行、③教育開発センタージャーナルの発行)を実施することができた。2010年度は、それぞれの内容の充実を図りたい。

以上が教育開発センターの2009年度の活動概要である。2010年度は、さらなる発展を目指して取り組みたい。

教育開発センター主催FDイベント

	行事	実施日・場所	参加者	内 容
4月	教育開発センター 開設 前期授業改善アンケート実施	2009年6月29日(月)～ 7月25日(土)	全学部、学際教育機構、共通 教育機構	KAC 1号館3階に新設 対象科目数 1,511科目、実施科目数 1,361科目 実施率 90.1%
7月	FDCニューズレター No.1 発行 FDセミナー 新任教職員とFD部会委員との懇談会	2009年7月1日(水) 2009年7月3日(金) KAC 第11大会議室 2009年7月27日(月) KPC クルーズカフェ	学長ほか教員14名(うち非常 勤講師1名)、職員6名 新任教職員6名、FD部会委員 9名、事務担当2名	所長からのご挨拶ほか 「学生のためのシラバスづくり ～一貫したDP、CP、APの構築と授業改善～」 講師：佐藤浩章(愛媛大学・教育企画室副室長)
8月	FDワークショップ	2009年8月31日(月)	学長ほか教員40名、 事務担当5名	「3つのポリシーの開発と一貫性構築手法」 講師：小林直人(愛媛大学・教育企画室長) ファシリテーター：城間祥子(愛媛大学・教育企 画室)
11月	FDCニューズレター No.2 発行	2009年11月2日(月)		FDワークショップの報告ほか
12月	FDミニワークショップ	KPC 2009年12月1日(火) A号館大会議室 KAC 2009年12月2日(水) 第3会議室	KPC:教員8名 (うち非常勤講師3名)、 職員3名 KAC:教員20名 (うち非常勤講師1名)、 職員4名	「わかりやすいシラバスづくり ～シラバスを通して良い授業をデザインする～」 講師：小林直人(愛媛大学・教育企画室長)
	学生とFD部会委員との懇談会	2009年12月7日(月) KAC 142E教室ほか	学生20名、FD部会委員12名、 事務担当2名	テーマ：「神戸学院の教育！ここ、どうにかなら へんの！」
1月	後期授業改善アンケート実施 教育開発センターHP立ち上げ	2009年12月10日(木)～ 2010年1月21日(木)	全学部、学際教育機構、共通 教育機構	対象科目数 1,535科目、 実施科目数 1,328科目、 実施率 86.5%
3月	FDCニューズレター No.3 発行 教育開発センタージャーナル創刊号発行	2010年3月発行 2010年3月26日発行		2009年度のまとめ

学部等主催FDイベント、FD研修出張など

	行 事	実施日・場所	参加者	内 容
5 月	留学生との懇談会 <経営学部>	2009年5月15日(金)	留学生15名、教員6名	
	新入生との懇談会 <法科大学院>	2009年5月12日(火)	学生22名、教員11名、 職員ほか15名	
	出張 「全国私立大学FD連携フォーラム」	2009年5月16日(土) 明治大学駿河台キャンパス	(法) 加藤雅之、和仁かや	テーマ：「日本における教育改革の方向性」
6 月	FD講演会 <総合リハビリテーション学部>	2009年6月16日(火)	教員7名、学生42名	「健康産業スポーツ分野の現状 -健康運動実践指導者、健康運動指導士のしごと-」 講師：太田悠貴 (SPORTS INTELLIGENCE)
	学生との懇談会 <総合リハビリテーション学部>	2009年6月26日(金)	学生10名、教員3名	
	学生との懇談会 <薬学部>	2009年6月26日(金)	学生9名、教員1名	
7 月	出張 「薬剤師のためのワークショップ in 近畿」	2009年7月4日 ～5日(土～日) 和歌山県薬剤師会館	(薬) 内海 美保	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ
	FD講演会 <人文学部>	2009年7月15日(水)	教員19名	「喫煙、飲酒、薬物の問題-乱用、依存、中毒-」 講師：湖海正尋 (兵庫医療大学)
	FD講演会 <栄養学部>	2009年7月15日(水)	教員ほか21名	「栄養学部受験生の増加を図る研究会」 講師：日高 茜、南 直樹 (進研アド)
	出張 「薬剤師のためのワークショップ in 近畿」	2009年7月19日 ～20日(日～月) 神戸学院大学	(薬) 中本 加寿夫	6年制実務実習のための検討、SBOsの作成方法などのワークショップ

	行 事	実施日・場所	参加者	内 容
7 月	FD 講演会 <総合リハビリテーション学部> 学生との懇談会 <人文学部>	2009 年 7 月 21 日 (火) 2009 年 7 月 28 日 (火)	教員 8 名、学生約 130 名 学生 6 名、教員 1 名	「ソーシャルワークの知識と技能の現場への活用」 講師：北山 晴菜 (神戸徳州会病院) 公文 杏 (育和会記念病院)
8 月	出張 「日本臨床検査教育学会学術大会」	2009 年 8 月 19 日 ～ 21 日 (水～金) 東京医科歯科大学	(栄) 山西 浩、合田 清、 藤岡由夫、山下 勉、 松田広一、尼子克己	臨床検査技師養成にかかる教員養成及び収集
	出張 「大学体育指導者中央研修会」	2009 年 8 月 21 日 ～ 23 日 (金～日) 山口大学吉田キャンパスほか	(学際) 西脇 満	テーマ：「大学体育における FD 活動の進め方」
9 月	FD 講演会 <経営学部> 学生との懇談会 <法学部>	2009 年 9 月 16 日 (水) 2009 年 10 月 21 日 (水)	教員 22 名、職員ほか 6 名 学生 12 名、教員 5 名	「アカデミックハラスメントってなんだろう」 講師：周藤由美子 (ウイメンズカウンセリング京都)
10 月	FD 意見交換会 <法学部> FD 講演会 <人文学部> 学生との懇談会 <法学部>	2009 年 10 月 27 日 (火) 2009 年 10 月 28 日 (水)	教員 26 名 教員 19 名 学生 8 名、教員 5 名	KAC において 「若者たちが社会に出て行くための高校・大学教育の果たす役割」 講師：易 寿也 (大阪府立松原高等学校校長)
11 月	出張 「兵庫教育大学 教育・社会調査研究センター 国際シンポジウム」	2009 年 11 月 17 日 (火) 2009 年 11 月 22 日 (日) 神戸国際会議場	(人) 水谷 勇	KPC において テーマ：「データアライブと学術研究・政策推進・事業利用のための国際協力」

	行 事	実施日・場所	参加者	内 容
12月	FD講演会 <総合リハビリテーション学部>	2009年12月26日(土)	教員15名、学外大学教員5名	「藤田保健衛生大学でのOSCE ～その実際と教育効果～」 講師：河野 光伸 (藤田保健衛生大学)
1月	出張 「物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウム」	2010年1月8日(金) 日本薬学会館	(薬) 山岡由美子、市川秀喜 平野裕之	物理系科目担当者の教育・研究の改善のため
	FD講演会 <人文学部>	2010年1月20日(水)	教員14名、職員2名	「初年次導入教育『知のナビゲータ』を用いた授業実践について」 講師：中澤 務 (関西大学)
3月	出張 「FDのための情報技術講習会」	2010年3月9日 ～11日(火～木) 大阪経済大学	(人) 水谷 勇	

※この活動報告は、2010年2月10日時点で報告書・出張伺が提出されているものを列記した。これ以外の活動については後日発行するニューズレターで報告する予定である。

神戸学院大学FD研修会
2009. 7. 3

学生のためのシラバスづくり



—一貫したDP,CP,APの構築と授業改善—

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室
佐藤 浩章
Hiroaki Sato

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

発表内容

- I. DP・CP・APの策定と一貫性構築の意義
- II. DPの策定
- III. CPの策定
- IV. APの見直し
- V. カリキュラム・マップの作成

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

I. DP・CP・APの策定と一貫性構築の意義

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

1. 愛媛大学のFD

- ・ 求められる「三つの方針」

2008年12月に提出された中央教育審議会答申では、国際通用性を備えた学士課程教育の構築のために「明確な『三つの方針』に貫かれた教学経営」を求めている。つまり、大学の個性・特色は「各機関ごとの学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」(ディプロマ・ポリシー：DP、カリキュラム・ポリシー：CP、アドミッション・ポリシー：APに対応)に反映されるものとし、この三つの方針の共通理解の下に教職員が日常の実践に携わり、PDCAサイクルを確立することが重要としている。

また、大学評価・学位授与機構の機関別認証評価において使用されている大学評価基準(平成20年度実施分)でも、同様の方針の策定と公表が求められている。

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

1. 愛媛大学のFD

- ・ カリキュラム(再)開発の困難さ

政策答申や大学評価基準を待つまでもなく、大学関係者であれば誰も、日本の大学のカリキュラムがいかに体系性を欠いたものであるかを知っているだろう。しかしながら授業と異なり、カリキュラムは組織と連動するものであり、その改革は容易ではない。しかも新規のカリキュラム開発ではなく、現存するカリキュラムの再開発となれば、困難の度合いは増す。
- ・ カリキュラム=政治

ある科目が存在するという事は、そこに人が介在しているということである。科目と科目の共同体であるカリキュラムは、人と人との共同体でもある。

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

1. 愛媛大学のFD

愛媛大学におけるFDの定義

「教育・学習効果を最大限に高めることを目指した

- ① 授業・教授法の改善(ミクロ・レベル)
- ② カリキュラムの改善(ミドル・レベル)
- ③ 組織の整備・改革(マクロ・レベル) への組織的な取組

(愛媛大学教育・学生支援会議決定 2007)

- ・ 本セミナーの目的

学士課程の体系化の取組はミドル・レベルのFDである。本取組を政策や認証評価への対応としてだけでなく、教員がカリキュラム(再)開発手法を学ぶFDの機会として位置づけ、それを効果的に実施する手法を紹介したい。

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

2. 教育コーディネーター研修

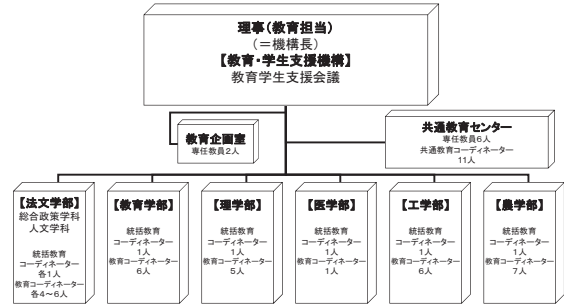
・ 教育コーディネーター研修会

2006年度は「単位の実質化とカリキュラムの体系化」をテーマに1回、2007年度は「学士課程の体系化～DP・CP・APの策定と一貫性構築～」をテーマに教育コーディネーター研修会(全5回。6月、8月、10月、11月、1月実施。2008年度は「学士課程の体系化～カリキュラム・マップとティーチング・ポートフォリオ開発」をテーマに、8月、11月、1月実施。2009年度は「学士課程の体系化～カリキュラム・アセスメントと単位制度の実質化」をテーマに、5月、7月、11月、1月実施予定。主催教育企画室。

・ 教育コーディネーターとは？

2006年度に誕生した、学部・学科の教育責任者として教育方針の立案、カリキュラムの編成、教育内容・教授法の改善、教育効果の検証などを担う「教育重点型教員」である。学科や教育コースごとに最低一人が配置され、現在65人(2009.6)がその任に当たっている。当該学部長の推薦に基づき、役員会の承認を経て、学長が任命。1期2年、2期を原則としている。研修会においても、学部・学科の方針の策定、全学の方針とのすり合わせを行っている。

2. 教育コーディネーター研修



2. 教育コーディネーター研修

◆2007年度第1回教育コーディネーター研修(6月7日)13:30～16:00

- ・ 講演「これからの学士課程教育に求められるもの」(小松学長)
- ・ 説明「本研修の目的と今後の課題について」(柳澤教育・学生支援機構長)
- ・ 事例発表「教育コースの再編と特別コースの新設」(法文学部総合政策学科 湯浅教授、人文学科 清水教授、農学部 泉学部長)
- ・ 総合討論



2. 教育コーディネーター研修

◆2007年度第2回教育コーディネーター研修(8月6日)13:30～17:00

- ・ 外部有識者による事例紹介「観点別教育目標から考えるカリキュラム・ポリシーの構造」(沖 立命館大学教授)
- ・ ワークショップ「DPの策定シミュレーション」(教育企画室)
- ・ 課題提示「DPの策定について」(柳澤教育・学生支援機構長)



2. 教育コーディネーター研修

◆2007年度第3回教育コーディネーター研修(10月4日)13:30～16:40

- ・ 説明「全学のディプロマ・ポリシー(DP)(案)について」(柳澤教育・学生支援機構長)
- ・ 報告「DP作成進捗状況について」(各学部統括教育コーディネーター等)
- ・ ワークショップ「カリキュラム・チェックリストの作成シミュレーション」(教育企画室)
- ・ 課題提示「カリキュラム・チェックリストの作成について」(柳澤教育・学生支援機構長)



2. 教育コーディネーター研修

◆2007年度第4回教育コーディネーター研修(11月8日)13:30～16:45

- ・ 報告(DP作成)(各学部統括教育コーディネーター等)
- ・ 検討「カリキュラム・チェックリスト作成に係る問題点、疑問点について」(教育企画室)
- ・ 課題提示「APの見直しについて」(柳澤教育・学生支援機構長)



2. 教育コーディネーター研修

- ◆2007年度第5回教育コーディネーター研修(20年1月31日)13:30~17:00
- ・ 学長挨拶(小松学長)
- ・ 各学部等最終報告(DP、CCL、AP)(各学部等担当者)
- ・ 各学部へ検討課題の提案(DPに合致しない授業科目の検討、カリキュラム・マップの作成など次年度の課題)(柳澤教育・学生支援機構長)



II. DPの策定

1. 教育企画室からの依頼

DPの定義

- ・ 中央教育審議会の定義 ※1
 - 卒業認定・学位授与に関する基本的な方針
- ・ 山口大学
GP(グラデュエーション・ポリシー)の定義 ※2
 - 「大学が教育活動の成果(Educational Outcomes)として学生に保証する最低限の基本的な資質(Minimum Requirement)」を箇条書きで記述したもの。

※1 我が国の高等教育の将来像(答申)2005年1月
 ※2 沖裕貴・田中均 2006「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的な考え方について」大学教育3、39-55.

1. 教育企画室からの依頼

- ①DPを5領域に設定することを求める
 他大学(山口大学、立命館大学)の先行事例を参考に、各学部・学科等の卒業時の到達目標を「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心」「態度」「技能・表現」の5領域に整理して文言化することを求めた。
- ②全学DPの提示
 各学部のDPが大学としての統一を欠くものにならないように、学部での作業前に全学DPを提示。全学DPはキーワードを羅列する形式で設定され、学部のDPを縛りすぎない程度のもとした。
- ③DP作成ワークショップ
 教育コーディネーターが各学部で作業しやすいように、研修会では学部DPを作成するワークショップを実施し、出来上がったDPに対して学部間でフィードバックを行った。実際の学部でのDP設定作業には3~5ヶ月の日数を要した。

1. 教育企画室からの依頼

DPの策定上の留意点

- ・ 具体的に、達成したことを挙証できる目標を記述すること
- ・ 抽象的な言葉を用いず、行動目標で記述すること
- ・ 教育目標分類学に従って、観点別に行動目標を記述すること
- ・ 多くの学生の現実の進路(就職先)や将来像を意識して記述すること
- ・ 学生を主語に、「○○できる」という形式
- ・ 原則として、一つの文章に一つの動詞を使う
- ・ 条件(制約・制限)、基準(数字は有効)を示すとよい。

※参考 沖裕貴・田中均 2006「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的な考え方について」大学教育3、39-55.

1. 教育企画室からの依頼

- ・ 各学部・学科等の卒業時の到達目標を、以下の5つの領域に整理して文章化する。

– 知識・理解	} 認知的領域	} 達成目標
– 思考・判断		
– 関心・意欲	} 情意的領域の達成・向上目標	}
– 態度		
– 技能・表現		

到達目標に使う具体的な動詞(1)

■知識領域

列記する／列挙する／述べる／具体的に述べる
 説明する／分類する／比較する
 例を挙げる／類別する／関係づける
 解釈する／予測する／選択する／同定する
 弁別する／推論する／公式化する
 一般化する／使用する／応用する
 適用する／演繹する／結論する／批判する
 評価する

到達目標に使う具体的な動詞(2)

■技能領域

感じる／始める／模倣する／熟練する
 工夫する／実施する／行う／創造する
 操作する／動かす／手術する／触れる
 触診する／調べる／準備する／測定する

■態度領域

行う／尋ねる／助ける／コミュニケーションする
 寄与する／協調する／示す／見せる
 表現する／始める／相互にやりとりする
 系統立てる／参加する／反応する／答える
 配慮する

1. 教育企画室からの依頼

平成19年9月19日 教育・学生支援会議
全学のディプロマ・ポリシー(DP)(案)

全学のDPが、各学部等のDP作成における方向性の提示となることも意識しつつ、複数のキーワードを包括した形の文章として示す。

＜自ら必要な知識や技術を学んでいく力＞

・社会の中で一人の人間として生き、自らの個性や適性に相応して自らの役割を果たしていくために必要な教養、知識と能力を身につける。

(キーワード)

個の確立、自主学習意欲、継続力(関心・意欲、態度)、専門的知識、専門的技術、情報収集力(知識・理解、技能)

1. 教育企画室からの依頼

＜議論し、企画をまとめ、提案する力＞

・自らのもつ知識や技術を活用しながら他者と議論し、企画をまとめあげ、提案を行うことができる。

(キーワード)

課題発見・解決力、応用展開力、総合的思考力、科学的思考力(思考・判断)、論理的表現力、語学力、リーダーシップ力、コミュニケーション力(技能・表現)

＜協働し、実践していく力＞

・立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができる。

(キーワード)

実践的行動力、〇〇への貢献、使命感、責任感(態度)、協調性、リーダーシップ力、コミュニケーション力(技能・表現)

2. 学部・学科等でのDP策定作業の実際

法文学部のDP

(知識・理解)

1. 社会科学または人文科学の包括的な知識を習得している。

(思考・判断)

2. 社会科学または人文科学の特定の学問領域において的確な考察及び判断ができる。

(関心・意欲)

3. 社会科学または人文科学の知を地域における実践力へと高めることができる。

(態度)

4. 生きた文化や社会の担い手としての自覚を持ち、責任を果たすことができる。

(技能・表現)

5. 社会で活躍できる確かなコミュニケーション能力を身につけている。

2. 学部・学科等でのDP策定作業の実際

人文学科のDP

(知識・理解)

1. 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている。
 2. 人文諸学の学問内容及び方法を理解している。

(思考・判断)

3. 自ら設定した課題について、人間文化・地域文化・歴史文化・言語文化のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。

(関心・意欲)

4. 人文学の知を実践の力へと高めることができる。
 5. 社会における自分の役割を自覚することができる。

(態度)

6. 人文学の知をもって地域社会のニーズに応えることができる。
 7. 生きた文化や生きた社会を創ることに寄与できる。

(技能・表現)

8. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。

神戸学院大学様のDP

- ・法学部
- ・経済学部
- ・経営学部
- ・栄養学部
- ・薬学部
- ・人文学部
- ・総合リハ学部 理学専攻
- ・総合リハ学部 作業専攻
- ・総合リハ学部 社会リハ専攻

25

III. カリキュラム・ポリシー(CP)の策定

26

1. 教育企画室からの依頼

①カリキュラムチェックリスト(CCL)の作成を求める
CPIは、文章化すると大量になるので、DPと整合性のあるカリキュラムを図示することで対応。この作業にはCCLを使用。CCLは、「列」に学科等のDPで設定された到達目標を、「行」に当該学科等で開講されている授業科目の到達目標を配置したものであり、両者がクロスするセルで整合性を確認できる。各授業科目の到達目標が学部DPに強く貢献している場合は◎がつき、全く貢献していない場合は空欄となる。

②CCL作成シミュレーション
学部で実際に開講されている科目を使ってシミュレーションを実施(PC使用)。

③学部でのCCL作成支援
学部でのCCL入力作業には、全教員の関与が求められるが、実際は、到達目標が適切に記述されていないシラバスが多く、チェックが困難な学部もあった。よって教員に対するシラバスの書き方に関するFD講習会を教育企画室に依頼した学部が3学部あった(全6学部中)。

27

1. 教育企画室からの依頼

- ・ CP(カリキュラム・ポリシー)
 - それ自体が文章化されるものではなく、DPと整合性のある教育カリキュラムが構築されることで達成されていると判断されるもの。
- ・ CCL(カリキュラム・チェックリスト)
 - 現在の学科等のDPとその教育カリキュラムに存在する各授業の到達目標との整合性を確認し、CPが達成できているかを判断するためのツール。

28

英語圏で一般的なシラバスにおける目標の表現

After taking this chapter, you should be able to :

- Explain the difference between communication and communications
- Discuss the strengths and weakness of various communication models
- Explain why communication breaks down and why it succeeds

Baden Eunson 2006 *Communicating in the 21st century*, John Wiley & Sons Australia, Ltd. p.1

29

日本の大学でよく見るシラバスにおける目標の表現

資料をご参照ください。

30

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇学部
〇〇〇〇〇 級

共通教育センター長

シラバスの修正について(依頼)

共通教育の授業担当について、ご協力いただきありがとうございます。さて、学生にとってよりわかりやすいシラバスを作成するため、共通教育のシラバスに關し、共通教育センターにてシラバスの自校作業を行っております。その結果、掲載の下記授業科目のシラバスについて、該当の事項に關して加筆・修正をお願いすることとなりました。シラバスはよりよい授業への第一歩となる文書です。よろしくご協力をお願いします。

記

授業科目名〔 〇〇〇〇 〕

(主題科目のみ)授業題目を記入してください。

授業題目・キーワードに英語表記をお願いします。

授業の内容を、15回の授業内容がわかるように記入をお願いします。

進捗によって内容が変わる場合は、何回かに分けてご記入いただくか、「下記の内容を15回の授業の間に進捗していきます」という記述をお願いします。なお、学期制によりもともと15回ない授業に關してはこの限りではありません。

学則では出席は成績評価の項目とされていないことにご留意ください。

オフィスアワー(必ず研究室におられる時間帯)の記入をお願いします。

なお、オフィスアワーは後で変更することが可能です。

■ その他

・「授業の目的・到達目標」は、学生が受講の結果として到達できる水準を述べてあることが必要です。学生が、「自分にもできそう」と思えるような分かりやすい表現で述べてください。目標に沿った行為動詞を用いてください。

詳細な内容に關する問い合わせ先
共通教育センター
31

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

到達目標の策定上の留意点

- 具体的に、達成したことを挙証できる目標を記述すること
- 抽象的な言葉を用いず、行動目標で記述すること
- 教育目標分類学に従って、観点別に行動目標を記述すること
- ディプロマ・ポリシーを意識して記述すること
- 学生を主語に、「〇〇できる」という形式
- 原則として、一つの文章に一つの動詞を使う
- 条件(制約・制限)、基準(数字は有効)を示すとよい。

※参考 沖裕貴・田中均 2006 「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的な考え方について」 大学教育3, 39-55.

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

32

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

目標に関する練習問題

次の3つの目標の問題点を指摘し、書き直しをしてみてください。正解は一つではありません。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

(1)ロシア語で日常会話を楽しむことができる。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

(2)家庭料理の基礎をマスターさせる。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

(3)小学校教科「体育」を担当するために必要な事柄について理解するとともに、それを教えるための基礎技能を身につける。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

神戸学院大学様のシラバス

- ・行動人類学 I
- ・現代社会基礎演習

2. 学部・学科等でのCP策定作業の実際

法文学部人文学科のCCL

授業科目	授業科目(履修)の概要	CCL(達成)のレベル			
		1	2	3	4
行動人類学 I	行動人類学 I の概要				
現代社会基礎演習	現代社会基礎演習の概要				
...	...				

2. 学部・学科等でのCP策定作業の実際

- ・シラバスの書き方に対する反省を構成員に促すことができた。
- ・シラバスの目的と目標の設定の仕方が、明確になった。
- ・シラバスの内容をDPの項目に即したものとなるように改訂した。
- ・教育の成果を挙証する仕組みが理解された。
- ・各自のシラバスの目標がDPのどれに該当するものか、◎○△を記入するにあたってレベル判断に迷うものがあった。

2. 学部・学科等でのCP策定作業の実際

- ・ CCL作成にあたって、上欄に並べられたDPの各項目にマークしていく場合、いずれかの科目がマークされていれば、CPとしてはDPをカバーすると考えてよいのか。
- ・ いずれかの科目といっても、その場合は必修科目でなければならないのでは？

IV. アドミッション・ポリシー(AP)の見直し

1. 教育企画室からの依頼

- ①学部APのチェック
教育企画室が既に作成・公表されている学部のAPをチェックしたところ、①DPの内容と混在している、またDPを超えた内容となっている、②入学試験の内容と対応していない、③「関心・意欲」「態度」の観点に偏りすぎている、といった課題が明らかになった。
- ②学部AP見直しを求める
- ③APチェックリストの提供
DP、CPを踏まえた上で、上記3点について留意してAPを見直すように依頼した。その際、APと入試制度が対応できているかをチェックするリストも作成し、提供した。

2. 学部・学科等でのAP策定作業の実際

人文学科のAP

(知識・理解)

1. 高等学校で学習する国語、外国語、地理、歴史、公民、数学、理科などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。

(思考・判断)

2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(関心・意欲・態度)

3. 言語・文化・文学・歴史・人間、思想、地域、社会などに興味関心を持ち、身につけた知識を地域社会及び国際社会に役立てたいと考えている。

(技能・表現)

4. 所与の問題について、自分の考えを日本語でわかりやすく表現できる。

2. 学部・学科等でのAP策定作業の実際

農学部アドミッション・ポリシー チェックリスト(簡)

農学部教育コーディネーター会議 平成20年 1月28日

	前期日程		後期日程		推薦ⅠA		推薦ⅠB		AO(地域マシナント)		推薦Ⅱ		AO(水産)	
	ゼミ 入	教科 入	ゼミ 入	面接	小論文	面接	小論文	面接	ゼミ 入	面接	ゼミ 入	面接	ゼミ 入	面接
(知識・理解)														
1. 高等学校で学習した主要科目科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。	○	○	○	○	○	△	○	△			○			△
2. 次のいずれかに該当する。														
(思考・判断)														
A. 高等学校で学習した主要科目科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。	○	○	○	○	△						○			
B. 農学・生物資源または工学、農学などに関する基礎的な専門知識・技術を有している。									○	△				△
(関心・意欲)														
ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。			△		○	△	△	△	△	○			○	○
(技能・表現)														
自分の考えを、日本語で他者からわかりやすく文章表現ができる。			△		○	△	△	△	△	○			○	○
(関心・意欲・態度)														
地域社会や国際社会に対する関心・資源・環境に関する様々な問題に関心を持ち、身につけた知識をこれらの解決に役立てたいと考えている。			○		○	○	○	○	○	○			○	○

課 題

①どの教育組織単位でDPの設定を行うか？

同じ「学部」という名称を使用している場合、学部によってその位置づけが異なる。例えば一学科しか持たない農学部と独立性の強い複数学科を抱える工学部では、「学部」の意味するものが違う。実質的なDPを設定できる組織はどの程度かを関係者は認知しておく必要がある。

②到達目標の表現方法をどうするか？

今回は5領域に分類したが、3領域という選択肢もある。教職員が分類しやすく、学生にも理解しやすい分類方法を採用しなければならない。

③到達目標に対する評価をどの程度まで厳密に行うか？

DPやAPIにあまりにも多くの到達目標を設定すると、それらを実行する手間がかかる。しかしながら、評価可能なものだけを記述するとDPやAPIで大学の個性・特色を表現するのは困難になる。両者のバランスをとるのが難しいが、DPやAPIは一般的なものに、個性・特色はCPで表現するというのが妥当であろう。

V. カリキュラム・マップの作成

1. カリキュラム・マップの開発

(1)カリキュラム・マップとは？

- カリキュラムにおける授業科目間の系統性・関係性を図示化したフローチャートやダイアグラムのこと。
- 図示化は、情緒面、注意面、教示面、支援面、記憶面で学習者の内容理解を高める(関2007)。
- コンセプト・マップ(概念地図法)と呼ばれている学習指導法(岸2000)をカリキュラムに応用したもの。コンセプト・マップは、初等・中等教育において、学習者の知識状態の確認のために使用されており、高等教育においては、工学分野を中心にカリキュラムを表現する手法として使われている(佐藤1996)。またシラバスを図示化する手法として使われている例もある(グリゲナら2004, Nilson2007)。
- FD教材としてのメリット:電子メディアでも紙媒体でも表現できる、一枚で全体を俯瞰できる、背景の異なる複数メンバーでの共有がしやすい、記憶に残りやすい。
- FD教材としてのデメリット:CGIと併用しなければ、厳密な体系性・関連性を理解することができない。

1. カリキュラム・マップの開発

(2)2008年度教育コーディネーター研修会のテーマ

「カリキュラムの体系化と授業改善
～カリキュラムマップの作成とティーチング・ポートフォリオ開発～」

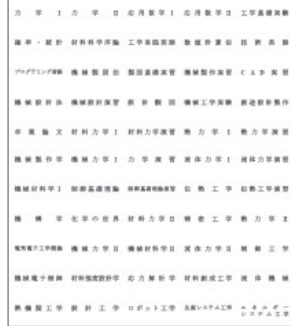
- ◆第1回研修(6月5日)13:30～16:00
 - ・説明「今年度のテーマと研修会の進め方について」(教育・学生支援機構長)
 - ・ワークショップ「カリキュラムマップの作成シミュレーション」(教育企画室)
- ◆第2回研修(8月6日)15:00～17:30
 - ・課題提示「カリキュラムマップの作成について」(教育・学生支援機構長)
- ◆第3回研修(11月10日)13:30～16:00
 - ・報告「カリキュラムマップの作成進捗状況」(各学部統括教育コーディネーター)
- ◆第4回研修(翌年1月29日)13:30～17:00
 - ・学長挨拶
 - ・各学部等最終報告「カリキュラムマップの作成」(各学部統括教育コーディネーター)

※カリキュラム・マップ作成に関係しない議題は割愛

1. カリキュラム・マップの開発

(3) 研修の流れ

- ①カリキュラム・マップの説明と作成シミュレーション(6月)
- カリキュラム・マップの先行事例紹介。学問分野による多様性を尊重することを強調。
 - 学部・学科に分かれて、作成シミュレーションのグループワーク。
 - 授業科目シールを配布し付箋に張り付けて、模造紙上に時間軸で並べ書きで関係図示。
 - ポスター発表による相互批評



授業科目シール

49

1. カリキュラム・マップの開発



理学部数学コース



法文学部総合政策学科

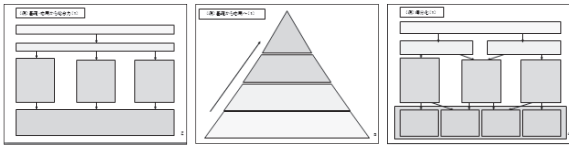
学問分野の多様性を表現する多様な簡易マップの完成

50

1. カリキュラム・マップの開発

- ②各学部・学科でカリキュラム・マップ作成(6月～1月)
簡易マップを基に議論

- ③研修会でカリキュラム・マップのモデルパターンの提示(11月)



基礎・応用から総合力

基礎から応用へ

細分化

51

1. カリキュラム・マップの開発

- ④研修会にて作成進捗状況の報告とコメント付与(11月)

- 「全体の構造や流れがわかりやすいか」
「一目で授業科目同士の関係がわかるか」
「興味深く見てもらえ、記憶に留まりやすいか」
「学生にとって、自らの学習内容の把握に役立つか」
上記視点から教育企画室がコメントし、意見交換

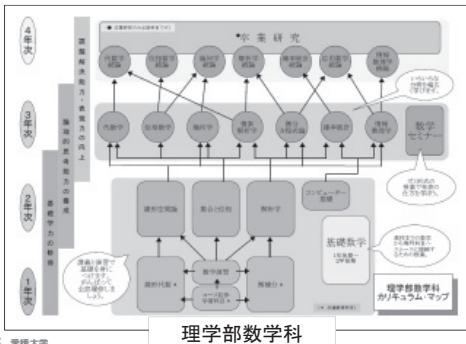
コメント例【法文学部総合政策学科司法コース】

- 全体としてはB案のほうが理解しやすいままとまった案となっています。コア科目を中央に配置することでその重要性が強調されています。
- 両案とも科目同士の関連は不明確です。何か工夫がほしいところです。例えば、基礎法科目群と刑事法科目群など、科目群同士の関連性を示したり、基礎→応用→発展についても何らかの工夫でその連続性を示すことができればよりわかりやすいと思います。また、B案コア科目の下の必修科目の位置づけが明確ではありません。
- B案では、学習が拡散していくような印象を受けます。年次が進行するにつれて、学習内容が統合・総合していくイメージの方が学習効果は高まるように思います。

52

2. カリキュラム・マップの実際

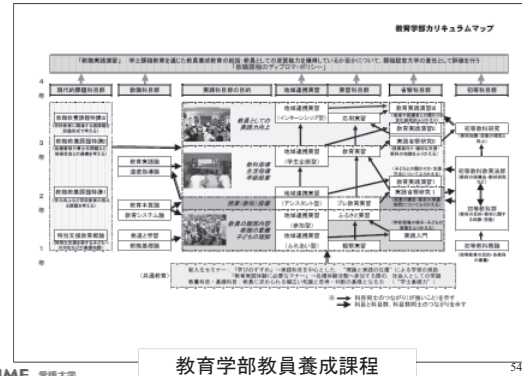
- ⑤研修会において最終発表(1月)



理学部数学科

53

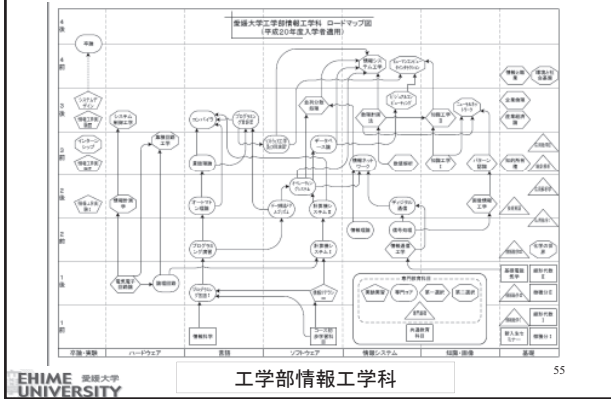
2. カリキュラム・マップの実際



教育学部教員養成課程

54

2. カリキュラム・マップの実際



55

2. カリキュラム・マップの実際



56

まとめ・課題・今後の予定

(1) まとめ

- ・教育コーディネーターを対象とする、年間4回の研修を通して、約8ヶ月で全学科・コースのカリキュラム・マップの作成を完了した。翌年度以降、ホームページで公開を依頼。
- ・モデル提示、シミュレーション、学科・コースでの作業、中間報告・コメント付与と意見交換、最終報告という手順での研修が成功した。
- ・教育コーディネーターがカリキュラムについて学ぶ良い機会となった。「初めて自分の学部でこれだけの科目が開講されていることを知った」(参加者)

(2) 課題

- ①学問分野毎の体系化の差異をどう考えるか？
理・工学部のマップについては直線型、その他のマップについては螺旋型・同心円型が多かったけれども、それは学問分野による差異なのか、体系化の程度の差異なのか。体系化されていないカリキュラムをマップとして表現することは困難。

57

まとめ・課題・今後の予定

(2) 課題(続き)

- ②マップの効果的な表現方法をどうやって抽出していくか？
学問分野によって、マップの表現方法は多様であるとしても、閲覧者、とりわけ学習者にとって理解しやすい表現方法はある。効果的なマップの雛型を抽出していく必要がある。
- ③FD教材としてのマップの有効性はあるか？
教員が集団として取り組むことで、教員の言動や組織にどのような変化が生じたのか。
- ④学生に対してマップをどう活用していくか？
学生に対して、どの時期に、どのような媒体で提示すると、学習に効果的なかについて検証必要。学習成果の検証等において有効に活用できないか。

(3) 今後の予定

- ・翌年度の教育コーディネーター研修のテーマ(年4回開催予定)
「学士課程教育の体系化～カリキュラム・アセスメントと単位制度の実質化」
- ・これにより教育課程のPDCAサイクルはCheck段階に入り、現状分析から再開発のステージに進む。

58

3. 今後の予定

ご清聴ありがとうございました。
ご質問・ご意見は下記までお願いします。

sato@iec.ehime-u.ac.jp

59

神戸学院大学FD研修会
2009. 8. 31.

ディプロマ・ポリシーから カリキュラム・ポリシーへ ～学生のための一貫性構築～

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室長
小林 直人
Naoto KOBAYASHI

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

1

内 容

- I. DP・CP・APの策定と一貫性構築の意義
- II. カリキュラムチェックリスト(CCL)の作成
- III. カリキュラム・マップ(CM)の作成
- IV. その次に来るもの
その先にあるもの




EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

I. DP・CP・APの策定と一貫性構築の意義

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

3

1. 愛媛大学のFD

・ 求められる『三つの方針』

中央教育審議会答申(2008年12月)では、国際通用性を備えた学士課程教育の構築のために「明確な『三つの方針』に貫かれた教学経営」を求めている。つまり、大学の個性・特色は「各機関ごとの学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」(ディプロマ・ポリシー：DP、カリキュラム・ポリシー：CP、アドミッション・ポリシー：AP)に反映されるものとし、この三つの方針の共通理解の下に教職員が日常の実践に携わり、PDCAサイクルを確立することが重要、としている。

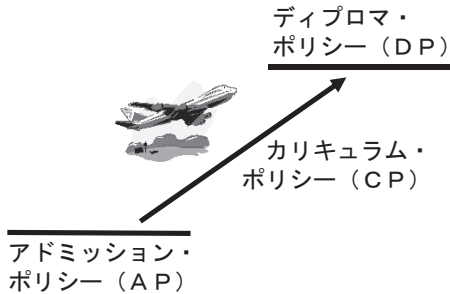
大学評価・学位授与機構(NIAD)の機関別認証評価において使用されている大学評価基準(平成20年度実施分)でも、同様の方針の策定と公表が求められている。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

4

1. 愛媛大学のFD

・ 求められる『三つの方針』



ディプロマ・ポリシー (DP)

カリキュラム・ポリシー (CP)

アドミッション・ポリシー (AP)

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

5

1. 愛媛大学のFD

愛媛大学におけるFDの定義

「教育・学習効果を最大限に高めることを目指した

- ① 授業・教授法の改善 (ミクロ・レベル)
- ② カリキュラムの改善 (ミドル・レベル)
- ③ 組織の整備・改革 (マクロ・レベル)

への組織的な取組」

(愛媛大学教育・学生支援会議決定 2007)

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

6

1. 愛媛大学のFD

愛媛大学におけるFDの定義

「教育・学習効果を最大限に高めることを目指した

- ① 授業・教授法の改善 (ミクロ・レベル)
- ② カリキュラムの改善 (ミドル・レベル)
- ③ 組織の整備・改革 (マクロ・レベル)

への組織的な取組」

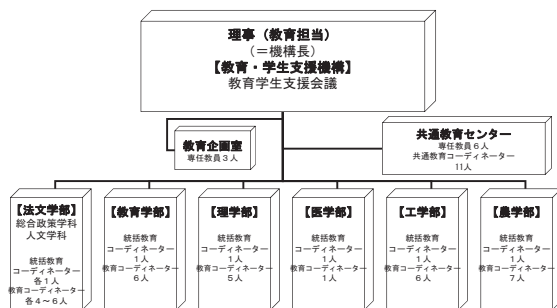
(愛媛大学教育・学生支援会議決定 2007)

2. 教育コーディネーター研修

愛媛大学の「教育コーディネーター」とは？

各学部/学科の教育責任者として教育方針の立案、カリキュラムの編成、教育内容・教授法の改善、教育効果の検証などを担う「教育重点型教員」である。2006年度に誕生し、学科や教育コースごとに最低1人が配置され、現在65人(2009.6.)がその任に当たっている。当該学部長の推薦に基づき、役員会の承認を経て、学長が任命する。1期2年2期の任期が原則。研修会において、学部・学科の方針の策定、全学の方針とのすり合わせを行っている。

2. 教育コーディネーター研修



2. 教育コーディネーター研修

教育コーディネーター研修 2007&2008 DPとCP(CCL&CM)の策定



Ⅱ. カリキュラム・チェック・リストの作成

1. カリキュラム・ポリシー

- ・ CP (カリキュラム・ポリシー)
 - それ自体が文章化されるものではなく、DPと整合性のある教育カリキュラムが構築されることで達成されていると判断されるもの。
- ・ CCL (カリキュラム・チェック・リスト)
 - 現在の学科等のDPとその教育カリキュラムに存在する各授業の到達目標との整合性を確認し、CPが達成できているかを判断するためのツール。

2. CCL作成作業の実際

法文学部人文学科のCCL

授業科目名	授業科目の到達目標(到達目標)	CCLの達成度(到達目標との対応)			
		知識	理解	応用	総合
国語学	国語学概論(1) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(2) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(3) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(4) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(5) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(6) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(7) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(8) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(9) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
国語学	国語学概論(10) 国語学とは何か、その歴史、対象、方法、意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎

2. CCL作成作業の実際

- ・ シラバスの書き方に対する反省を構成員に促すことができた。
- ・ シラバスの目的と目標の設定の仕方が、明確になった。
- ・ シラバスの内容をDPの項目に即したものとなるように改訂した。
- ・ 教育の成果を挙証する仕組みが理解された。
- ・ 各自のシラバスの目標がDPのどれに該当するものか、◎○△を記入するにあたってレベル判断に迷うものがあった。

3. CCL作成作業の課題

①シラバスの到達目標とDP・CCLが対応可能か？

個々の科目のCCL作成のためには、シラバスの到達目標が明確である必要がある。さらに、シラバスの到達目標とDPの表現方法(例えば「5領域」の分類)が一致していることが望ましい。

シラバスの到達目標の留意点

- ・ 具体的に、達成したことを検証できる目標を記述する。
- ・ 抽象的な言葉を用いず、行動目標で記述する。
- ・ 教育目標分類学に従って、観点別に行動目標を記述する。
- ・ ディプロマ・ポリシーを意識して記述する。
- ・ 学生を主語に、「○○できる」という形式に。
- ・ 原則として、一つの文章に一つの動詞を使う。
- ・ 条件(制約・制限)、基準(数字は有効)を示すとよい。

※参考 沖裕貴・田中均 2006 「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的な考え方について」 大学教育3、39-55。

3. CCL作成作業の課題

②DPの到達目標の表現方法をどうするか？

愛媛大学では5領域に分類したが、3領域という選択肢もある。教職員が分類しやすく、学生にも理解しやすい分類方法を採用する。

③到達目標に対する評価をどの程度まで厳密に行うか？

DPにあまりにも多くの到達目標を設定すると、それらを実行する手間がかかる。しかしながら、評価可能なものだけを記述すると大学の個性・特色を表現するのは困難になる。両者のバランスをとるのが難しいが、DPやAPは一般的なものに、個性・特色はCPで表現するというのが妥当であろう。

DP策定上の留意点

DPの定義

- ・ 中央教育審議会の定義^(※1)
 - 卒業認定・学位授与に関する基本的な方針
- ・ 山口大学GP(グラデュエーション・ポリシー)の定義^(※2)
 - 「大学が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質」を箇条書きで記述したもの。

※1 我が国の高等教育の将来像(答申)2005年1月

※2 沖裕貴・田中均 2006 「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的な考え方について」 大学教育3、39-55。

DP策定上の留意点

DPの策定上の留意点

- ・ 具体的に、達成したことを検証できる目標を記述する。
- ・ 抽象的な言葉を用いず、行動目標で記述する。
- ・ 教育目標分類学に従って、観点別に行動目標を記述する。
- ・ 多くの学生の現実の進路（就職先）や将来像を意識して記述する。
- ・ 学生を主語に、「〇〇できる」という形式に統一する。
- ・ 原則として、一つの文章に一つの動詞を使う。
- ・ 条件（制約・制限）、基準（数字は有効）を示すとよい。

※参考 沖裕貴・田中均 2006 「山口大学におけるグラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシー策定の基本的な考え方について」 大学教育 3、39-55.

DP策定上の留意点

- ・ 各学部・学科等の卒業時の到達目標を、以下の5つの領域に整理して文章化する。
- 知識・理解 } 認知的領域 { 達成目標
- 思考・判断 } 向上目標
- 関心・意欲 } 情意的領域の達成・向上目標
- 態度
- 技能・表現 } 精神運動的領域の達成目標

到達目標に使う具体的な動詞（1）

■知識領域

列記する／列挙する／述べる／具体的に述べる
説明する／分類する／比較する
例を挙げる／類別する／関係づける
解釈する／予測する／選択する／同定する
弁別する／推論する／公式化する
一般化する／使用する／応用する
適用する／演繹する／結論する／批判する
評価する

到達目標に使う具体的な動詞（2）

■技能領域

感じる／始める／模倣する／熟練する
工夫する／実施する／行う／創造する
操作する／動かす／手術する／触れる
触診する／調べる／準備する／測定する

■態度領域

行う／尋ねる／助ける／コミュニケーションする
寄与する／協調する／示す／見せる
表現する／始める／相互にやりとりする
系統立てる／参加する／反応する／答える
配慮する

DP策定上の留意点

平成19年9月19日 教育・学生支援会議（案）

全学のディプロマ・ポリシー（DP）

全学のDPが、各学部等のDP作成における方向性の提示となることも意識しつつ、複数のキーワードを包括した形の文章として示す。

<自ら必要な知識や技術を学んでいく力>

・ 社会の中で一人の人間として生き、自らの個性や適性に相応して自らの役割を果たしていくために必要な教養、知識と能力を身につける。

（キーワード）

個の確立、自主学習意欲、継続力（関心・意欲、態度）、専門的知識、専門的技術、情報収集力（知識・理解、技能）

DP策定上の留意点

<議論し、企画をまとめ、提案する力>

・ 自らのもつ知識や技術を活用しながら他者と議論し、企画をまとめあげ、提案を行うことができる。

（キーワード）

課題発見・解決力、応用展開力、総合的思考力、科学的思考力（思考・判断）、論理的表現力、語学力、リーダーシップ力、コミュニケーション力（技能・表現）


<協働し、実践していく力>

・ 立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができる。

（キーワード）

実践的行動力、〇〇への貢献、使命感、責任感（態度）、協調性、リーダーシップ力、コミュニケーション力（技能・表現）


II. カリキュラム・チェック・リストの作成



EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY 25

内 容

- I. DP・CP・APの策定と一貫性構築の意義
- II. カリキュラムチェックリスト（CCL）の作成
- III. カリキュラム・マップ（CM）の作成
- IV. その次に来るもの
その先にあるもの




EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

III. カリキュラム・マップ（CM）の作成

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY 27

1. カリキュラム・マップの開発

カリキュラム・マップとは？

- ・カリキュラムにおける授業科目間の系統性・関係性を図示化したフローチャートやダイアグラムのこと。
- ・図示化は、情緒面、注意面、教示面、支援面、記憶面で学習者の内容理解を高める（関2007）。
- ・コンセプト・マップ（概念地図法）と呼ばれている学習指導法（岸 2000）をカリキュラムに応用したもの。コンセプト・マップは、初等中等教育において、学習者の知識状態の確認をするために使用されており、高等教育においては、工学分野を中心にカリキュラムを表現する手法として使われている（佐藤 1996）。また、シラバスを図示化する手法として使われている例もある（グリゲナラ 2004, Nilson 2007）。

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY 28

1. カリキュラム・マップの開発

カリキュラム・マップとは？

- ・FD教材としてのメリット：
 - 電子メディアでも紙媒体でも表現できる
 - 一枚で全体を俯瞰できる
 - 背景の異なる複数メンバーでの共有がしやすい
 - 記憶に残りやすい
- ・FD教材としてのデメリット：
 - CCLと併用しなければ、
 - 厳密な体系性・関連性を理解することができない。

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY 29

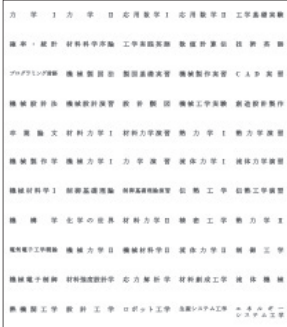
1. カリキュラム・マップの開発

カリキュラム・マップの作成

授業科目シールを付箋に張り付けて、模造紙上に（時間軸で並べ）手書きで関係を図示

↓

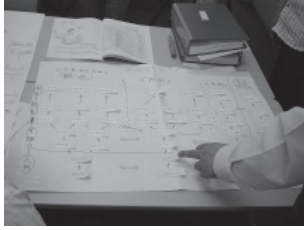
ポスター発表による相互批評とさらなる改善



授業科目シール 30

EHIME 愛媛大学 UNIVERSITY

1. カリキュラム・マップの開発



理学部数学コース

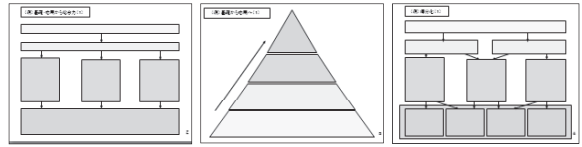


法文学部総合政策学科

学問分野の多様性を表現する多様な簡易マップの完成

1. カリキュラム・マップの開発

カリキュラム・マップのモデルパターン



基礎・応用⇒総合力

基礎から応用へ

細分化

1. カリキュラム・マップの開発

カリキュラム・マップのモデルパターン



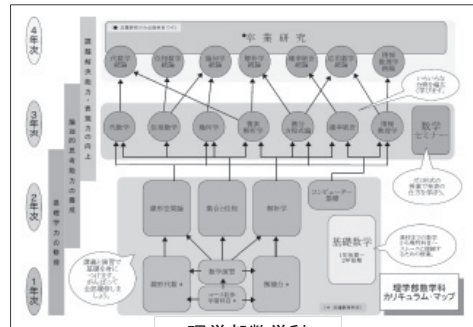
基礎・応用⇒総合力

基礎から応用へ

細分化

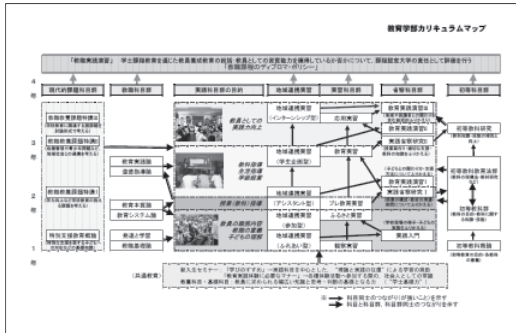
- 「全体の構造や流れがわかりやすいか」
- 「一目で授業科目同士の関係がわかるか」
- 「興味深く見てもらえ、記憶に留まりやすいか」
- 「学生にとって、自らの学習内容の把握に役立つか」

2. カリキュラム・マップの実際



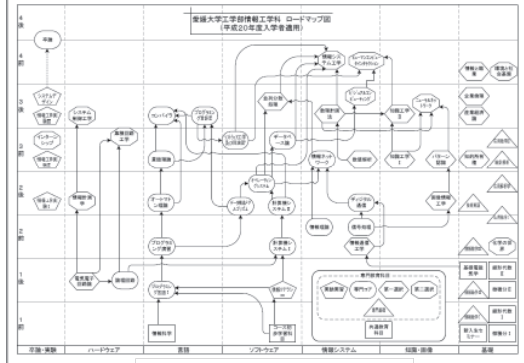
理学部数学科

2. カリキュラム・マップの実際



教育学部教員養成課程

2. カリキュラム・マップの実際



工学部情報工学科

2. カリキュラム・マップの実際



法文学部総合政策学科企業システムコース

Ⅲ. カリキュラム・マップ (CM) の作成



内 容

I. DP・CP・APの
策定と一貫性構築の意義

II. カリキュラムチェック
リスト (CCL) の作成

III. カリキュラム・マップ
(CM) の作成

IV. その次に来るもの
その先にあるもの



IV. その次に来るもの、その先にあるもの

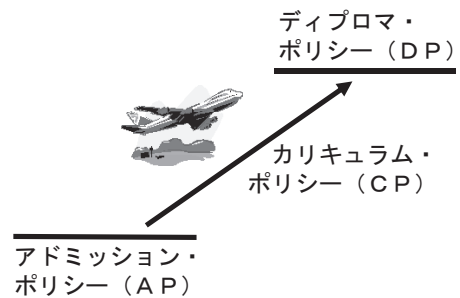
ワークショップを終えてから

(1) AP・CP・DPと個々の科目の一貫性

- ・表現形式の統一?
- ・シラバスの見直し、DPの見直し、
⇒CCLの改訂
- ・APの改訂 入試方法の見直し
CMの改訂 新しい科目やカリキュラム
DPの改訂 養成する人材像の見直し

ワークショップを終えてから

・求められる『三つの方針』



次のステップに向けて

(2) 誰のためのAP・CP・DPか？
誰のためのFDか？

次のステップに向けて

(2) 誰のためのAP・CP・DPか？
誰のためのFDか？

学生のため

次のステップに向けて

(2) 誰のためのAP・CP・DPか？
誰のためのFDか？

学生のため
↑
教職員のため

次のステップに向けて

(2) 誰のためのAP・CP・DPか？
誰のためのFDか？

学生のため ←受験生のため
↑ ←就職先のため
教職員のため

次のステップに向けて

(2) 誰のためのAP・CP・DPか？
誰のためのFDか？

学生のため ←受験生のため
↑ ←就職先のため
教職員のため

おわりに

ご清聴ありがとうございました。
ご質問・ご意見は下記までお願いします。

naoto@m.ehime-u.ac.jp

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室長
愛媛大学 医学部 総合医学教育センター長
小林直人

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

わかりやすいシラバスづくり

シラバスを通して良い授業をデザインする

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室長
小林 直人

1

内容

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名・キーワードの書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 授業概要・スケジュールの書き方
7. 評価に関わる情報の書き方
8. 履修条件の書き方
9. 受講のルールの書き方
10. 学習上の助言の書き方
11. 教材に関わる情報の書き方
12. オフィスアワー・連絡先の書き方

参考文献一覧

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

2

内容

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名・キーワードの書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 授業概要・スケジュールの書き方
7. 評価に関わる情報の書き方
8. 履修条件の書き方
9. 受講のルールの書き方
10. 学習上の助言の書き方
11. 教材に関わる情報の書き方
12. オフィスアワー・連絡先の書き方

参考文献一覧

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

3

1. シラバスとは何か？

(1) 定義

「教師が、コースの初めに学生に配布する授業計画のことです。そこには、各回の授業のテーマや、そのために予習しておくべきことから、課題、評価の方法と基準などを盛り込みます。」

(池田ら2001:p.59)

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

1. シラバスとは何か？

(2) シラバスの役割

- ① 授業選択ガイドとして
- ② 契約書として
- ③ 学習効果を高める文書として
- ④ 教員と学生の人間関係づくりのツールとして
- ⑤ 授業の雰囲気伝える文書として
- ⑥ 授業全体をデザインする文書として
- ⑦ カリキュラム全体に一貫性をもたせる資料として

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY



シラバスは学びの地図

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

2. シラバスの項目例

- 1) 愛媛大学
- ・授業題目
 - ・授業のキーワード
 - ・授業の目的
 - ・授業の到達目標
 - ・授業概要
 - ・授業スケジュール
 - ・授業時間外学習にかかわる情報
 - ・成績評価方法
 - ・受講条件
 - ・受講のルール
 - ・教科書
 - ・参考書
 - ・教科書・参考書に関する補足情報
 - ・オフィスアワー
 - ・連絡先
 - ・参照ホームページ
 - ・その他

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

2. シラバスの項目例

- 2) 金沢大学
- ・授業科目名(英文名)
 - ・キーワード
 - ・授業の主題
 - ・授業の目標
 - ・学生の学習目標
 - ・授業の概要
 - ・評価の方法
 - ・評価の割合
 - ・テキスト・教材・参考書等
 - ・その他履修上の注意事項や学習上の助言
 - ・オフィスアワー等(学生からの質問への対応方法等)
 - ・受講者調整の方法

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

3. 授業科目名・キーワードの書き方

- 1) 授業科目名
- ・学部、学科等のカリキュラム・ポリシーに沿うように
 - ・一般教育(共通教育)の場合は、多様な学生を想定し、わかりやすいタイトルの工夫を
例 「基礎生化学」→「生活の中の生化学」
「骨学入門」→「ヒトの骨『百物語』」
 - ・留学生対応や海外大学との単位互換のために英文併記を求められることがある

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

3. 授業科目名・キーワードの書き方

- 2) キーワード
- ・学生が授業を概観できるように、授業で扱う主なトピックを抜き出す
 - ・授業終了後には、そのキーワードについて説明できるようになっていることが望ましい
 - ・留学生対応や海外大学との単位互換のために英文併記を求められることがある

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

4. 目的の書き方

- ・ 目的 = この授業の存在意義 (Purpose)
- ・ 学生からの「なぜこれを学ばなければならないの?」という問いへの答え
- ・ 「～するために」を入れるとよい

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

4. 目的の書き方

- ・ 学生を主語にする
× 「○○について説明する。概説する。」
教員が主語の文。概要説明になっている。
- 「××するために、○○について理解し、△△を的確に判断できるようになる。」
学生が主語の文。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

4. 目的の書き方

- 総括的な動詞を用いて表現する

授業の目的に使用する動詞
 修得する 身につける 理解する 創造する
 位置づける 価値を認める 知る 認識する など

(日本医学教育学会2006)



5. 目標の書き方

- 目標＝授業終了段階で、学生にできるように なってほしい事柄(Goal)を「〇〇できる」のように動詞を使って表現
- 授業の目的を具体化したもの (数個から10数個)
- 学生を主語にする



5. 目標の書き方

- 観察可能な行動で記述する
- 知識・態度・技能の三領域に分けるとよい

×「印象派絵画について感受性を高め、作品の価値を理解しながら、じっくりと味わう」
 態度と知識が混在。抽象度が高い。
 ○「印象派絵画の芸術的価値について、1990年までの通説と、それ以降の通説の違いを踏まえて、説明することができる。」



5. 目標の書き方

授業の目標に使用する動詞(知識領域)

列記(挙)する 述べる 推論する 記述する 説明する
 分類する 比較する 対比する 類別する 弁(識)別する
 関係づける 予測する 具体的に述べる 結論する
 同(特)定する 公式化する 一般化する 指摘する
 選択する 使用する 応用する 適用する など

(日本医学教育学会2006)



5. 目標の書き方

授業の目標に使用する動詞(態度領域)

協調する 配慮する 参加する コミュニケートする 討議する
 尋ねる 示す 見せる 助ける 感じる 行う 相談する
 寄与する 反応する 応える など



(日本医学教育学会2006)



5. 目標の書き方

授業の目標に使用する動詞(技能領域)

測定する 実施する 模倣する 熟練する 工夫する
 触れる 行う 調べる 操作する 挿入する 準備する
 手術する 視診する 聴診する 触診する 打診する など

(日本医学教育学会2006)



5. 目標の書き方

- 一つの文章に一つの目標
複数の目標があると達成度測定が困難
- 評価される条件を明示する
例 「電卓を使って」「辞書を見ながら」
- 評価される基準を明示する
例 「具体例を3つ以上説明できる」
「1分以内で完成させることができる」
- 現実的かつ、チャレンジングなレベルに設定する(ジャンプすれば届く距離)

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

5. 目標の書き方



目標は、そのまま成績評価項目になる。
適切な目標は、学生の自学自習を促す。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

目標に関する練習問題

事例に記載された目標の問題点を指摘し、書き直しをしてみてください。正解は一つではありません。

(1)ハプスブルグ家所蔵の美術を鑑賞する。

★問題点

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

(1)ハプスブルグ家所蔵の美術を鑑賞する。

★問題点

- これはそもそも「目標」ではなく「目的」なのでは？
- 何のために鑑賞するのかが伝わるように書くべき。

★書き直し

「美術を鑑賞する」ために具体的に何が必要なのかを考え、それを「目標」とする必要がある。

歴史(美術史? 政治史?)
美術鑑賞の基本的視点?

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

(2)ロシア語で日常会話を楽しむことができる。

★問題点

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

(2)ロシア語で日常会話を楽しむことができる。

★問題点

- ・「日常会話」が曖昧。
- ・「楽しむ」は測定が困難。楽しむ以前に、できるようになっていないなければならない行動があるはず。
- ・この文章も「目的」の「目的」になってしまっている。

★書き直し

初対面の相手と、ロシア語で、挨拶と自己紹介(3分間)をすることができる。

(3)家庭料理の基礎をマスターさせる。

★問題点

(3)家庭料理の基礎をマスターさせる。

★問題点

- ・「マスターする」があいまい。
- ・「基礎」も不明確。
- ・教員が主語になっている。

★書き直し

日本の一般家庭で作られている料理の中から任意の3品4人前を、何も見ないで、60分以内に作る事ができる。

(4)小学校教科「体育」を担当するために必要な事柄について理解するとともに、それを教えるための基礎技能を身につける。

★問題点

(4)小学校教科「体育」を担当するために必要な事柄について理解するとともに、それを教えるための基礎技能を身につける。

★問題点

- ・動詞が二種類入っている。
- ・「必要な事柄」「理解」「基礎技能」が曖昧。

★書き直し

- ・小学校教科「体育」で扱うスポーツの中から任意の3種について、その歴史・ルールについて説明ができる。
- ・授業で扱うニュースポーツのうち、1つについて、完全な初心者にもルール指導ができる。

事例 H先生

「この講義では、コミュニケーションとしての行動を考える。まず、私たちの身近な日常の行動をふりかえり、例えば、人が対面して会話しているときの距離や姿勢、接触の仕方や身振り、仕草と行ったものを取りあげ、そこにどのようなコミュニケーションが成立しているかを考える。また、様々な分野から提出されているコミュニケーション理論を紹介するとともに概説する。最後に、チンパンジーの言語能力を検討することによって、ヒトのことばによるコミュニケーションの基盤を探る。」

事例 H先生

「この講義では、コミュニケーションとしての行動を考える。まず、私たちの身近な日常の行動をふりかえり、例えば、人が対面して会話しているときの距離や姿勢、接触の仕方や身振り、仕草と行ったものを取りあげ、そこにどのようなコミュニケーションが成立しているかを考える。また、様々な分野から提出されているコミュニケーション理論を紹介するとともに概説する。最後に、チンパンジーの言語能力を検討することによって、ヒトのことばによるコミュニケーションの基盤を探る。」

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

事例 Y先生

「『有機化合物の性質と反応Ⅰ』」に引き続き、有機化学の基礎知識を習得するために、次の到達目標を掲げる。①代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。(知識)...⑬含窒素化合物の塩基性を説明できる。(知識)」

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

事例 Y先生

「『有機化合物の性質と反応Ⅰ』」に引き続き、有機化学の基礎知識を習得するために、次の到達目標を掲げる。①代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。(知識)...⑬含窒素化合物の塩基性を説明できる。(知識)」

⇒「目的」は？

なぜ「有機化学の基礎知識を習得する」のかが学生には自明でしょうか？ DPとの関連は？

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

目的・目標に関する個人ワーク

ご自身のシラバスの目的・目標を見直してみてください。

6. 授業概要・スケジュールの書き方

- 目的・目標と対応させる。
- 授業概要は、授業で扱う内容を大まかに記述する。
- 授業スケジュールは、無理のない進度で
＝詰め込み過ぎない
(数回で区切りをつけてユニット制とする、複数回テストを設定することで内容をこまめに確認する、予備日を設ける)
- わかりやすい「流れ」を考え、要素を選択・配列する

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

6. 授業概要・スケジュールの書き方

学習順序の原理

簡単	→	複雑		
既知	→	未知		
個別	→	一般		
具体的	→	抽象的		
結論	→	理由		
過去	→	現在	→	未来
全体	→	詳細	→	全体

(内田2005:p.78)

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

6. 授業概要・スケジュールの書き方

- 授業時間外の学習課題等を提示する。
- 授業時間外での学習を促す工夫
 - ①教科書の予習(例:章を提示)を課す
 - ②毎回授業の冒頭でテストを行う
 - ③授業のフィードバックを課す
 - ④ボーナス課題を出す
 - ⑤グループで取り組む課題を出す
 - ⑥試験の例題や過去問を公表する

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

6. 授業概要・スケジュールの書き方

- 毎回具体的に計画が立てられない場合は下記のように書く。

例「第2～5回 学生が選んだテーマでグループディスカッション」
- シラバスを変更する際は、学生に変更の理由を説明する。新たなシラバスを配布する。ただし原則はシラバスどおりに進めることが望ましい。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

7. 評価に関わる情報の書き方

- テストやレポートの内容, 提出期限, 時期を明記することで, 学生の計画的な学習を促す。
- 基準, 配分割合(例 テスト60%、レポート20%、毎回のコメントシート20%)を明記する。
- 目的・目標と対応させる(原則全て網羅, 間引きしない)。
- 成績評価基準は測定可能なものにする。
- 学習と全く関係のないものを評価対象としない。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

8. 履修条件の書き方

- 学生のニーズと授業内容とのミスマッチを防ぐため、事前に履修が必要な科目や能力を記載する。

「高校で学習する日本史の知識を必要とする」
「●年次に英語Ⅰを履修していることが望ましい」

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

9. 受講のルールの書き方

- 資料配布方法, 課題提出のルール
例「資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーをすること」
「当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けます」
- 受講のマナー
例「授業中の飲食は禁止」
- 教員の常識≠学生の常識。お互いが不愉快な思いをしないために具体的に記載する。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

10. 学習上の助言の書き方

- 効果的な学習上の助言
例
「〇〇新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されるので、目を通しておくとよいでしょう。」
「市内の〇〇センターには関連する最新情報が掲示されています。」
「図書館のスタディ・ヘルプ・デスクでは、本授業に関する質問を受け付けています。気軽に利用して下さい。」

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

11. 教材に関する情報の書き方

- 教科書を使用するかどうか、する場合は、書名、著者、出版社、出版年、価格に関する正確な情報を記入する。絶版等入手困難になっていないかどうかを確認する。
- 授業中に直接使用しない場合は、どのように使うかを明示する。明示できない場合は、参考書扱いとする。
- 一般教育(共通教育)の場合、本情報は、学問への誘い、自学自習のガイドという意味があるので丁寧に記述する。
- ホームページや研究会等の情報提供も有効。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

12. オフィスアワー・連絡先の書き方

- 具体的な時間の指定を
×「いつでも構わない」 ○「水曜日12時～14時」
- 授業が重なっている学生がいることを配慮して、休み時間を含めた時間帯にするのが望ましい。
- 電話番号、メールアドレス、研究室の場所を記載する。
- 学生にとって研究室訪問は勇気のいること。研究室への訪問を課題とするのも良いアイデア。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY



シラバスから授業は始まっています。
学習を促すツールとして活用を。

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

参考文献

- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2000)『成長するティップス先生』(玉川大学出版会)
- 内田実(2005)『実践インストラクショナルデザイン』(電機大出版局)
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(2007)『FDハンドブック第1巻 もっと!! 授業を良くするために』
- 鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル』(北大路書房)
- 徳島大学大学教育委員会(2002)『FD推進ハンドブック』
- 日本医学教育学会(2006)『第33回医学教育者のためのワークショップ(富士研WS)配布資料』
- 北海道大学高等教育機能開発総合センター(2000)「北海道大学FDマニュアル」『高等教育ジャーナル』第7号
- Grunert, Judith (1997) *The Course Syllabus*. Bolton, MA: Anker Publishing Company

EHIME 愛媛大学
UNIVERSITY

46